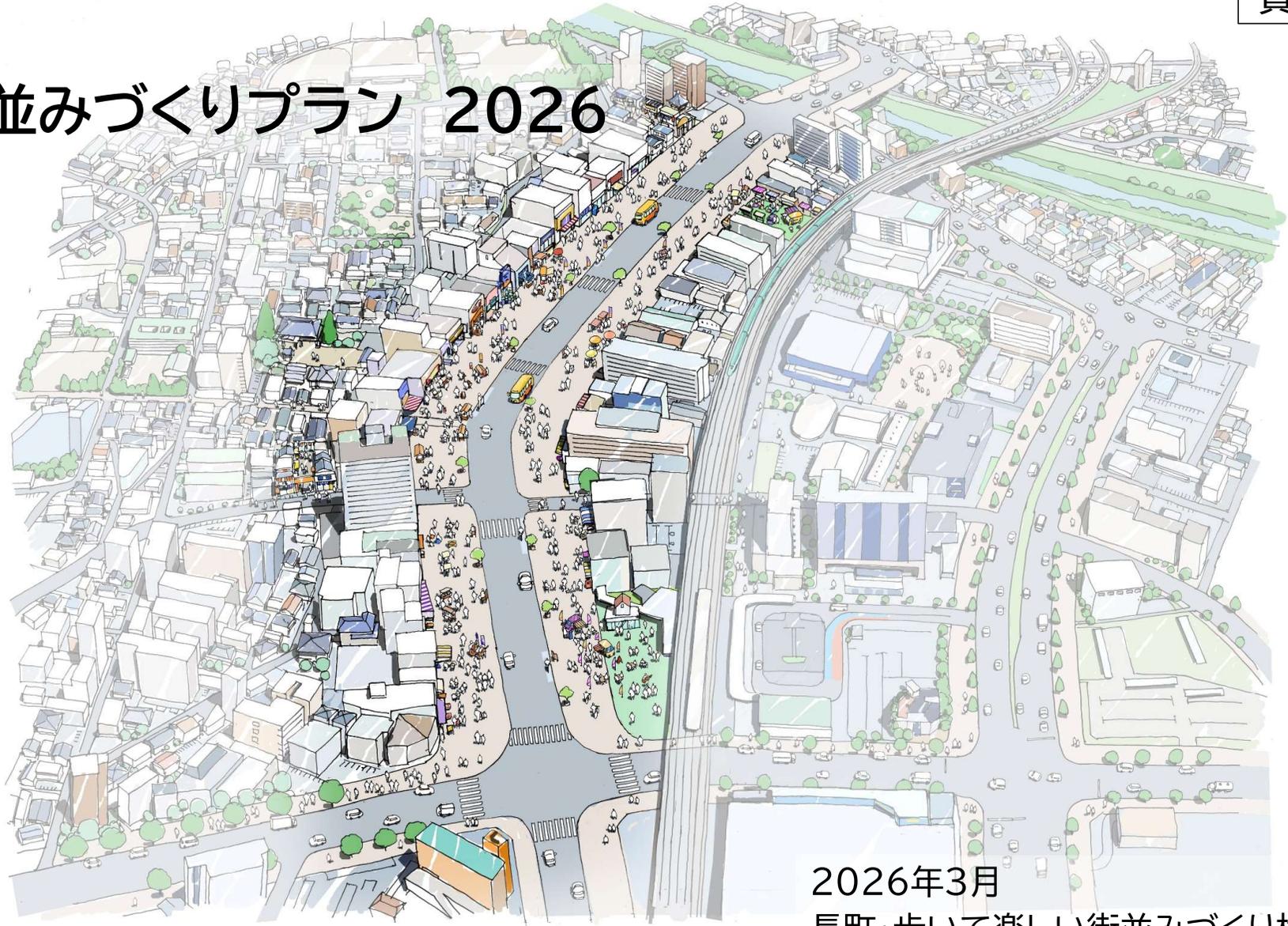


# 長町・街並みづくりプラン 2026

## 最終案



2026年3月  
長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会

# はじめに

- 仙台市の南部に位置する**長町地区**は、地区内人口※約3万人(2025年度)を抱え、JRや地下鉄の4駅とともに路線バスとの交通結節機能を有するほか、区役所等の行政施設、文化センターや図書館等の文化施設を備えるなど、市南部の広域拠点として都市機能の集積が図られています。
- 歴史的にも、現在のJR長町駅西側の旧国道4号周辺(長町商店街エリア)を中心に、江戸時代には宿場町として栄え、明治時代には青果市場が設置されるとともに商店が集積していました。その後も長町駅が開業し、秋保電鉄や市電の終着駅となるなど、市南部の中心地、交通・物流の拠点として発展を続け、商業のまちとして人々が行き交ってきました。
- 現在の長町地区には、3つのエリアがあります。
- **あすと長町エリア**は、JR長町駅東側が区画整理事業により整備され、高層マンションや大型商業施設が立ち並び、子育て世代の人口が増加するとともに、大型商業施設やイベント広場を中心に賑わいが生み出されています。
- **長町南エリア**は、太白区役所と大型商業施設が隣接して立地し、大型商業施設を中心に人が集まり、賑わいが生み出されています。
- **長町商店街エリア**は、旧国道4号沿道を中心に古くからの商店街が立地していますが、近隣エリアの賑わいを十分に取り込むまでには至っておらず、事業主の高齢化や事業継承の困難さにより、空き店舗や空き地の発生、駐車場への転用等が散見される状況にあります。

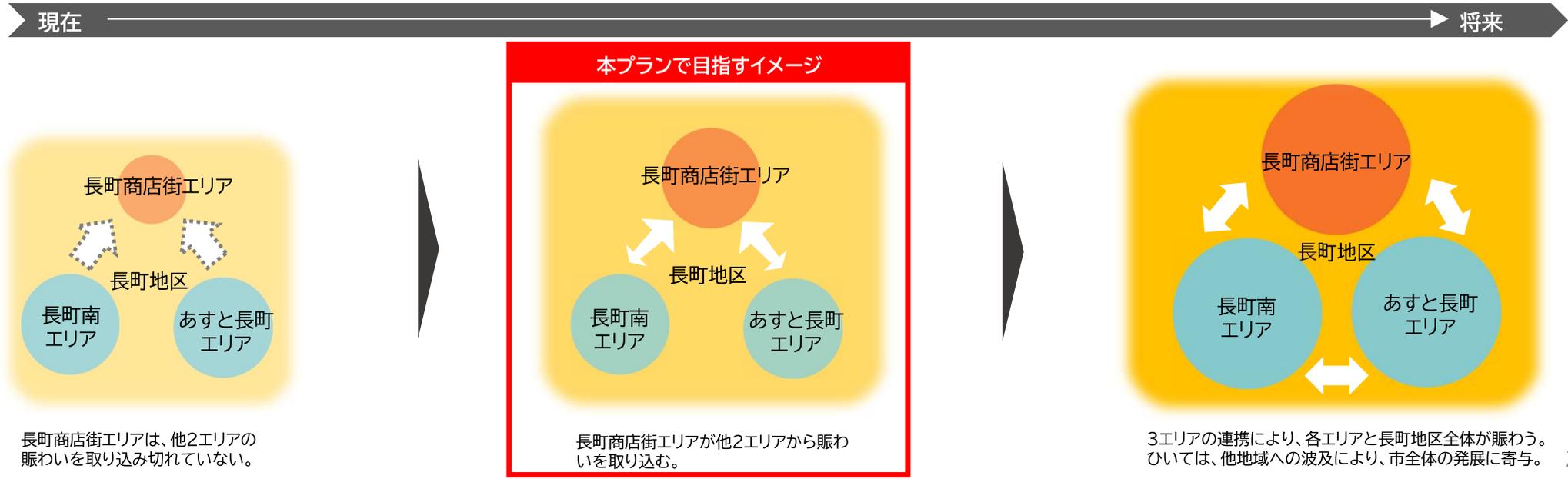


本プランの対象地域は、旧国道4号沿道を中心とする長町商店街エリア(図の朱色部分)  
※本プランでは、長町一丁目～八丁目、あすと長町一丁目～四丁目、長町南一丁目～四丁目を計上

# はじめに

- このような状況を受け、長町地区全体の更なる発展のためには長町商店街エリアの活性化が重要との共通認識の下、地域と行政が連携し、2023年3月から長町商店街エリアにおける歩いて楽しい街並みづくりの取組みが始められました。
- 2024年3月には、地域での議論をベースとした長町・歩いて楽しい街並みの将来像(ビジョン)(以下「将来ビジョン」という。)が市により策定され、2024年6月からは将来ビジョンの具体化に向け、官民が連携して検討を進める長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会(以下「検討会」という。)が発足し、様々な議論やそれを踏まえた社会実験による検証等を行いながら取組みを進めてきました。
- この長町・街並みづくりプラン2026(以下「本プラン」という。)は、これまでの検討を踏まえ、長町商店街エリアにおける目指す街並みの姿、街並みづくりの基本的な方針や具体的な取組みを整理したものです。
- 今後、本プランに基づき、古くからの長町の良さ、多様性を受容してきた歴史や風土を大切にしながら、社会環境の変化等にも柔軟に対応しつつ、官民が連携し、できることから取組みを進めていきます。

## 長町地区の賑わいイメージ



# 長町商店街エリアの歴史と歳時記

- 1612年(慶長17年) 奥州街道に仙台城下郊外最初の宿駅、長町宿設置
- 1878年(明治11年) 長町に名取郡役所開設
- 1889年(明治22年) 長町に名取郡茂ヶ崎村役場設置
- 1892年(明治25年) 長町青物市場設立
- 1896年(明治29年) 長町停車場開業、東北線長町駅営業開始
- 1914年(大正3年) 秋保石材軌道開業(長町～秋保)、馬車が石材と温泉客を運ぶ
- 1915年(大正4年) 茂ヶ崎村から長町へ改称
- 1925年(大正14年) 長町駅に大規模な貨物操車場(長町ヤード)が完成
- 1925年(大正14年) 秋保電気軌道(のちに秋保電気鉄道に改称)開業(電力化)
- 1928年(昭和3年) 仙台市が長町を合併
- 1936年(昭和11年) 仙台市電長町線全線開通
- 1949年(昭和24年) 宮城県経済農業協同組合連合会が長町市場営業開始
- 1961年(昭和36年) 秋保電気鉄道廃止
- 1963年(昭和38年) 長町市場廃止
- 1976年(昭和51年) 仙台市電廃止
- 1984年(昭和59年) 貨物操車場(長町ヤード)廃止
- 1987年(昭和62年) 仙台市地下鉄南北線開通、長町駅・長町一丁目駅設置
- 1999年(平成11年) 仙台市太白図書館、仙台市太白区文化センター開館
- 2010年(平成22年) 長町駅西口広場供用開始
- 2012年(平成24年) ゼビオアリーナ開業、仙台89ERSのホームアリーナに
- 2013年(平成25年) あすと長町、土地区画整理事業完了



仙台市戦災復興記念館より

長町青物市場



仙台市交通局ホームページより

仙台市地下鉄南北線車両

## 長町商店街エリア イベント歳時記

### 春(3月～5月)

5月:舞台八幡神社・蛸薬師如来祭典



舞台八幡神社・蛸薬師如来祭典の神輿担ぎ

### 夏(6月～8月)

7月:長町まつり

8月:七夕吹き流し掲出、広瀬川灯ろう流し  
イルミネーション、ビアガーデン



七夕吹き流し

### 秋(9月～11月)

10月:太白区民まつり

長町秋のフェスティバル



どんと祭、裸参り

### 冬(12月～2月)

12月:イルミネーション、冬のビアガーデン  
1月:どんと祭、裸参り



# 目次

## 本編

はじめに	…1～2
長町商店街エリアの歴史と歳時記	…3
<b>1 長町商店街エリア</b>	
強み	…6
課題	…7
強みと課題を踏まえて	…8
<b>2 目指す街並みの姿</b>	…9
<b>3 街並みづくりの取組み</b>	
取組みの基盤とする共通認識	…10
取組みの方向性	…11
実践メニュー	…12～22
エリアマネジメントの推進に向けて	…15
公共空間の機能強化に向けて	…17
道路空間再整備に向けて	…19～21
ゾーンの特徴と社会実験結果	…23
戦略の構成	…24
戦略と将来イメージ	…25～30
施策体系	…31
<b>4 今後の進め方</b>	
組織体制と進捗管理	…32
進める上での視点	…33

## 資料編

長町・歩いて楽しい街並みの将来像(ビジョン)	…35～36
社会実験	…37～38
関連イベント・プラン中間案への意見募集	…39
長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会	…40～41



東北工業大学 不破研究室が制作した200分の1スケールの長町の立体模型

# 1 長町商店街エリア

## 強み

### 個性豊かな地域資源と下町情緒の魅力

- 神社仏閣、旧街道、横丁、老舗等の歴史を感じさせる地域資源の魅力
- 下町らしい雰囲気や情緒・人情など、まちそのものが纏う魅力(長町らしさ)

### 交通利便性や大型施設等による集客性

- 鉄道やバスの交通利便性による通勤・通学者の存在
- 文化センター、図書館等の利用者の存在
- 杜の広場、ゼビオアリーナでのイベントや試合等への来場者の存在
- 仙台市立病院への通院、お見舞い等による来訪者の存在

### 潜在的な活動の担い手や顧客の存在

- 隣接するあすと長町エリアにおける、土地区画整理に伴う集合住宅等の整備による人口の増加（新たな交流や活動の担い手であり、特に多い子育て世代層は潜在的な顧客候補）

### 地域住民をはじめとした市民の力

- 商店街や町内会、まちづくり団体等による、地域に愛着を持った自立的な活動
- 内容は、広瀬川灯ろう流し等の大規模イベントから沿道のごみ拾いまで様々



長町商店街エリアの地域資源(青字)

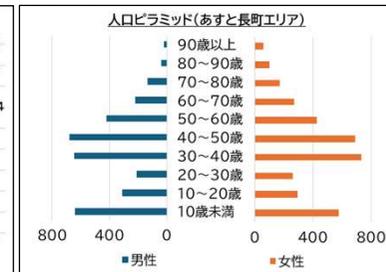
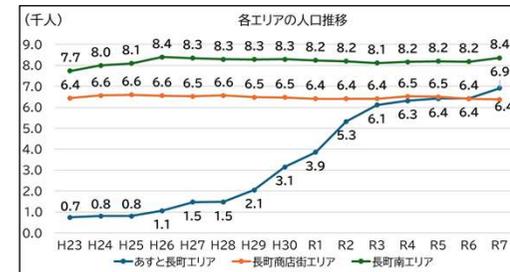


昔、洪水により蝸に吸い付かれた薬師様が流れ着いたとの言い伝えがある蛸薬師如来



©SENDAI 89ERS

仙台89ERSホームゲーム(ゼビオアリーナ仙台)



出典: 仙台市「町名別年齢(各歳)別住民基本台帳人口」、右図は2025年10月1日現在データ

※長町商店街エリアは長町一丁目、三丁目、五丁目、あすと長町エリアはあすと長町一丁目～四丁目、長町南エリアは長町七丁目、長町南一丁目、三丁目、四丁目としている。



長町の夏の終わりの風物詩である広瀬川灯ろう流し



長町商店街エリアのごみ拾い

# 1 長町商店街エリア

## 課題

### 個店の減少による魅力の低下

- 近隣への大型商業施設の出店や人々のニーズの変化等を背景に、エリア内の個店は減少傾向。エリア内の土地利用もマンションや駐車場が一定割合を占め、空き地・空き店舗も散見されるなど、商店街エリアとしてのまちの魅力が弱まり、人々の来街意欲が低下している。

### 歩きにくい歩道による通行の不安

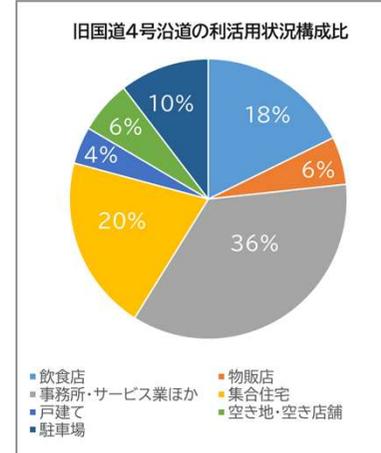
- エリアのメインストリート(旧国道4号)は、地下鉄長町駅北側出入口から長町一丁目駅周辺にかけて歩行空間が狭く、自転車利用者も歩道を通ることが多いため、歩行者が歩きにくさや安全性への不安を感じている。

### 回遊性・滞在性の低さ

- エリアは南北に約1kmと長く、エリア内の商店や地域資源を巡るには長い距離を移動する必要があるものの、途中途中で一息つけるような空間が少ないことなどもあり、回遊や滞在に繋がっていない。



長町商店街エリアの南北の距離



2025年5月2日現在のデータ  
※建物の1階部分の利活用状況を目視で調査



エリア内の空き地



狭い歩行空間(長町駅前交差点付近)

# 1 長町商店街エリア

## 強みと課題を踏まえて

強みと課題を踏まえて、目指す街並みに向けた取組みを進めていきます。



## 2 目指す街並みの姿

目指すまちの姿

新しくて懐かしい 心躍る触れ合いのまち ナガマチ

目指す通りの姿

歩いて楽しい 賑わいと交流が生まれる人中心の街並み

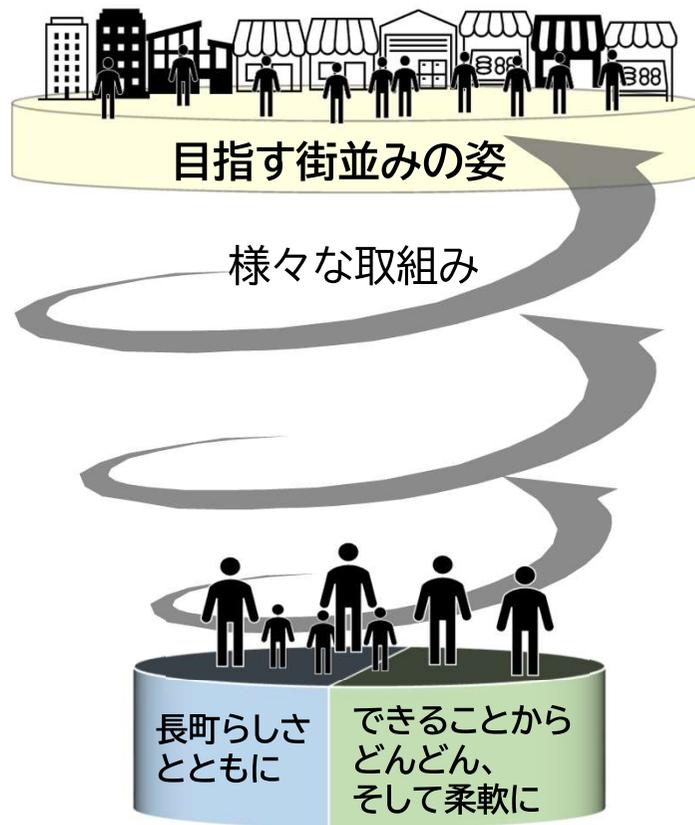


- 2023年度に地域と行政とがワークショップ等で意見交換しながらまとめた目指す街並みの姿です。
- 目指すまちの姿「新しくて懐かしい 心躍る触れ合いのまち ナガマチ」には、長町商店街エリアが、歴史的な地域資源や下町情緒など古くからのまちの個性を大切にしながら、新しい魅力や文化を生み出し、訪れる人にも、住んでいる人にも、心躍るような出会いと温かい触れ合いのある魅力的なまちになってほしいという想いがつまっています。
- また、目指す通りの姿「歩いて楽しい 賑わいと交流が生まれる人中心の街並み」は、そうした様々な人たちの活動が、旧国道4号沿道を舞台に展開され、賑わいや交流が生まれる活気あふれる通りとなることへの期待が込められています。
- 目指す街並みの姿の実現に向け、地域を挙げて、また様々な主体が連携しながら取組みを進めていきます。

### 3 街並みづくりの取組み

#### 取組みの基盤とする共通認識

目指す街並みの姿を実現するために、次のような共通認識を持ちながら、方向性と戦略等を整理の上、官民で具体的な取組みを進めていきます。



#### 共通認識1

#### 長町らしさとともに

時代が移り変わる中、長町の風景や人々も例外なく変わっていきます。そのような中であって、時代とともに形を変えながらも、この地域の風景や人々の中に引き継がれていく長町らしさがあります。それは歴史的な地域資源であり、人情とも情緒とも地域への誇りや愛着ともいえるものでもあります。そのような長町らしさを大切にしながら、新しい魅力や文化を生み出し、この街並みづくりを進めていきます。

#### 共通認識2

#### できることからどんどん、そして柔軟に

長町には、多様な主体が地域に愛着を持って様々な活動に自立的・積極的に取り組む姿があります。この街並みづくりにおいても、地域、事業者、行政が、それぞれでできることはそれぞれで、連携すればできることは連携して、できることからどんどん取組みを進めていきます。また、変化が激しく、価値観の多様化が進む社会環境を踏まえ、この街並みづくりの計画を定めた後も、目的や趣旨を十分に踏まえた上で柔軟に見直しを行いながら、取組みを進めていきます。

### 3 街並みづくりの取組み

#### 取組みの方向性

目指す街並みの姿の実現に向け、エリアの強みと課題を踏まえて、6つの取組みの方向性と20の実践メニューを整理し、取組みを進めていきます。

取組みの方向性	実践メニュー	取組みの方向性	実践メニュー
<b>1</b> 長町らしい魅力の活用	1-① 触れ合いのある商店街づくり 1-② 新たな取組みによる魅力づくり 1-③ 魅力の周知・広報	<b>4</b> エリアマネジメントの推進	4-① エリアマネジメント団体の設立 4-② 街並み空間での社会実験・イベント 4-③ 街並み空間のリノベーション 4-④ 街並みのルールづくり
<b>2</b> 開業支援等の強化	2-① 商店街店舗等の調査 2-② オーナーとのマッチング 2-③ チャレンジショップの設置 2-④ 開業に向けた伴走支援	<b>5</b> 公共空間の機能強化	5-① 長町駅西口広場・長町駅前プラザ及び周辺歩道の機能強化 5-② リップルロードの機能強化 5-③ 公共空間の環境整備
<b>3</b> 多様な主体の参画	3-① まちづくりに関する情報発信の強化 3-② まちづくり関係者等の集いの場の創出 3-③ 関係団体との連携強化	<b>6</b> 道路空間の再整備	6-① 誰もが安全・安心で歩きやすい歩道空間の創出 6-② 歩道拡幅のための車線減少を伴う道路空間再整備 6-③ 歩いて楽しい歩道空間の環境整備・利活用

### 3 街並みづくりの取組み

#### 実践メニュー

#### 1 長町らしい魅力の活用

長町には、古くからの風情や人情等の魅力が息づいている。この魅力を活かして取組みを進めるとともに、下町情緒あふれる長町商店街としてブランディングを図る。

##### 1-① 触れ合いのある商店街づくり

- 商店街の店舗や横丁において、顔が見え会話を楽しめる場づくりを行う。
- 広瀬川灯ろう流し等の地域のお祭りに、学生や若者等が参画できる仕組みをつくる。
- 古くからの街道であり、学生など人の往来も多い笹谷街道を活かした取組みを行う。
- 親子連れの商店街利用の促進に向け、こどもが商店街店舗で交流できるイベント等を行う。
- 店主同士が情報交換できる場をつくる。

##### 1-② 新たな取組みによる魅力づくり

- 商店街の店舗を集めたマルシェ、フリーマーケットや街歩き、アートや音楽、夜の長町を楽しめるイベント等を開催する。
- 新たなシンボルや名物となるキャラクターやグルメを生み出す。

##### 1-③ 魅力の周知・広報

- まちの歴史的成り立ちや商店街店舗、夜の楽しみ方、季節のイベント情報等を掲載したエリアマップを作成し、多くの利用者が訪れる文化施設や集客施設のほか、転入者が訪れる区役所など、あすと長町エリアや長町南エリアを含めた様々な場所で配布する。



長町商店街エリアのイベントや施設等を紹介するアプリ

### 3 街並みづくりの取組み

#### 実践メニュー

#### 2 開業支援等の強化

商店街の魅力はやはり店舗の魅力。もともと多い個店を支援するとともにチャレンジショップや開業支援等を進め、魅力ある店舗の増加を図る。

##### 2-① 商店街店舗等の調査

- ・ 既存店舗の事業継承支援や空き店舗利活用の可能性を探るため、商店街店舗等の現況調査やヒアリングを行う。

##### 2-② オーナーとのマッチング

- ・ 利活用の可能性がある空き店舗について、オーナーと意見交換を行う。
- ・ 意見交換の結果、利活用の意向が確認できた物件について、新規店舗の誘致を進める。

##### 2-③ チャレンジショップの設置

- ・ 気軽にお試し出店ができるチャレンジショップの仕組みづくりを行い、周知・広報する。
- ・ チャレンジショップを設置し、参加者の運営をサポートする。
- ・ チャレンジショップ参加者へのヒアリング等を行い、新規出店に向けたニーズや課題等を把握し、効果的な開業支援のあり方を検討する。

##### 2-④ 開業に向けた伴走支援

- ・ 店舗誘致に向け、開業支援の相談窓口を設ける。
- ・ 開業支援のメニューを取りまとめ周知するとともに、セミナー等を開催する。



賑わい創出社会実験「NAGAMACHI PLACE MAKING CHALLENGE 2025」におけるモバイルコンテナでの出店

## 3 街並みづくりの取組み

### 実践メニュー

#### 3 多様な主体の参画

長町には、自立的に活動を行う市民の姿や潜在的な活動の担い手の存在がある。情報発信や情報交換の場づくり、関係団体との連携強化等を通じ、多様な主体が長町でまちづくりに参画できる環境をつくる。

##### 3-① まちづくりに関する情報発信の強化

- 多様な主体のまちづくりへの参画を促すため、社会実験、イベント、ワークショップをはじめとしたまちづくりに関する様々な情報を継続的に発信する。

##### 3-② まちづくり関係者等の集いの場の創出

- 市民やまちづくり関係者が広く集まり、情報交換や意見交換、連携できる場をつくる。
- エリアの活性化に関心がある方の活動支援のため、手続きや環境づくり等についてのアドバイスを行う窓口を設ける。

##### 3-③ 関係団体との連携強化

- 周辺施設と相互送客やエリア活性化に関する協定等を締結するなど、ネットワークを構築する。
- エリアの持続的発展に向け、学校との連携を強化し、学生のまちづくりへの参画を促す。



太白区が発行する広報紙「NAGAMACHI TIMES」



地域おこし協力隊による活動

### 3 街並みづくりの取組み

#### エリアマネジメントの推進に向けて

#### エリアマネジメント推進の検討経過

エリアの魅力的かつ持続的な街並みづくりのため、地域主導による検討が進められた。

##### ①ながまちみらいデザイン会議

- ◆ 長町では様々な団体が活動を行っているが、長町商店街エリアの活性化のための勉強会組織として、「ながまちみらいデザイン会議」が2024年6月に発足した。月1回の会議には商店街、地域、まちづくり関係者、地域おこし協力隊、大学関係者等が参加している。
- ◆ ながまちみらいデザイン会議での勉強会や、他都市の都市再生推進法人への視察研修等を通じて、長町商店街エリアにも地域の価値を維持・向上させるための地域主体のまちづくり(エリアマネジメント)が必要という共通認識が生まれ、2025年6月に長町エリアマネジメント推進準備委員会が発足した。



ながまちみらいデザイン会議



ながまちみらいデザイン会議での他都市視察

##### ②長町エリアマネジメント推進準備委員会

長町地区においてエリアマネジメント活動を展開していくために必要な事柄を整理し、エリアマネジメントを推進する組織を設立することを目的に、事業計画や運営の検討のため、月1回程度会議を実施している。

これまでの検討内容

エリアマネジメント団体の役割

住む人の住・生活環境の快適化 一住み続ける持続性のあるまちを目指して一

##### 【目的】

長町を将来(30年後)も元気なまちにすること

- ① 地域資源(公共・民間空間含む)を活用した地域交流機会の創出
- ② 長町商店街を中心とした地域経済の活性化
- ③ 地域情報の集約と発信

##### 【事業(案)】

- |               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| I 公共空間管理運営事業  | : 自主企画運営、利用申請代行、レンタル事業、企画サポート等 |
| II 空き店舗利活用事業  | : レンタルスペース事業、テナント転賃等           |
| III 不動産賃貸事業   | : 駐車場管理運営、不動産賃貸事業等             |
| IV 広告事業       | : フラッグ広告、デジタルサイネージ等            |
| V まちづくり情報発信事業 | : アプリ、ミニコミ誌発行等                 |
| VI その他        | : 受託事業等                        |

### 3 街並みづくりの取組み

#### 実践メニュー

#### 4 エリアマネジメントの推進

長町には、地域に愛着を持ち、多様な活動を行ってきた市民の力がある。地域に根差したエリアマネジメント団体を設立し、地域自らの手によりエリアの価値を向上させる取組みを行う。

##### 4-① エリアマネジメント団体の設立

- エリアマネジメント団体を設立し、本プランに基づくまちづくりを主体的に実践するとともに、出店希望者やイベント企画者など、長町で何かやってみたい人がやりたいことを実現できるよう、手続きや行政・地権者等との調整等のサポートを行う。

##### 4-② 街並み空間での社会実験・イベント

- エリアの将来的な利活用に向けたニーズや可能性を探るため、道路をはじめとした空間の新たな使い方を実証する社会実験を行う。
- 新規出店者や学生など、長町で新たに活躍する人材の掘り起こしを行うため、長町駅西口広場やリップルロードでのイベントを開催する。

##### 4-③ 街並み空間のリノベーション

- 空き店舗のリノベーションや空き地、**駐車場の有効活用、屋外広告物の活用等を通じ**、まちの賑わいを創出する。
- 人々が居心地良く、ゆったりと滞在できる空間となるよう、都市公園リノベーションを行う。

##### 4-④ 街並みのルールづくり

- 人々が歩きたくなる街並みづくりに向けて、住民等の合意の下、店舗や住居等の民地を含めた景観のルールづくりを行う。



道路空間社会実験「NAGAMACHI STREET ACTION 2024」における道路空間利活用(旧国道4号)



賑わい創出社会実験「NAGAMACHI PLACE MAKING CHALLENGE 2025」における公園利活用(長町駅西口広場)

# 3 街並みづくりの取組み

## 公共空間の機能強化に向けて

### 公共空間の機能強化の検討経過

エリアの滞在性の向上、賑わいの演出、交流空間の創出等に向けて、公共空間の機能強化の検討を行った。

#### ①検討会における議論

検討会の利活用ワーキンググループにおいて、既存の公共空間である長町駅西口広場(公園)・リップルロード(道路)をエリアの拠点として活用するとともに、機能強化していくこととなった。

#### 【拠点の方向性】

#### 長町駅西口広場:長町地区の始まりの拠点

- 長町地区全体の中心に位置し、交通利便性に優れる好立地を活かし、まちとのつながりを感じられる空間を創出する。
- 多様な人がこの場所で何かを実施してみたい、参加してみたい、関わりたいと思うような始まりの空間を創出する。

#### 目指す空間のイメージ

企画実現のための空間、案内機能が充実した空間、交流空間等

#### リップルロード:未来に向けた交流拠点

- リップルは「波紋」「物事・影響が広がる様子」という意味。リップルロードを核に長町地区に影響を与える拠点を創出する。
- 誰もが気軽に立ち寄り、コミュニケーションが取れるような交流空間を創出する。

#### 目指す空間のイメージ

コミュニティ空間、滞在・賑わい空間等

#### ②賑わい創出社会実験

#### 「NAGAMACHI PLACE MAKING CHALLENGE 2025」

長町商店街エリアにおける既存の公共空間(公園・歩道等)を舞台に、一般公募した様々な「長町でやりたいこと」を実現してもらう社会実験を、2025年8月29日(金)～10月5日(日)の期間に実施した。

#### 【実施状況】



ドッグラン企画(長町駅西口広場)



音楽イベント(長町駅西口広場)

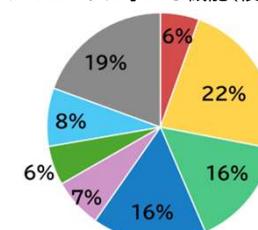
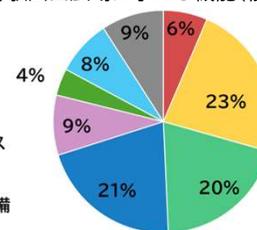


キッズハロウィン企画(リップルロード)

#### 【社会実験の結果】 来場者・通行者アンケート(回答者数1,475名)

<長町駅西口広場に求める機能(複数回答可)> <リップルロードに求める機能(複数回答可)>

- 案内機能
- 休憩スペース
- 飲食スペース
- イベント開催場所
- コミュニティスペース
- 植栽・緑化
- 水道やトイレ等の設備
- 今のままで良い



# 3 街並みづくりの取組み

## 実践メニュー

### 5 公共空間の機能強化

長町は集客性に優れ、近隣に潜在的な顧客もいる。現在もイベント等で活用されているオープンな公共空間が、更に利活用され、多くの人々が長町に関わり、地域の魅力を高めていけるよう、機能強化や環境整備を行う。

#### 5-① 長町駅西口広場・長町駅前プラザ及び周辺歩道の機能強化

- ・ イベント等での利活用推進に向け、電気・給排水設備等を整備する。
- ・ イベントをはじめとした周辺施設、商店街や長町地区全体の情報を発信する案内機能を備える。
- ・ 誰もが居心地が良く滞在できるような芝生やテーブルセット、ベンチ等の整備を進める。
- ・ 地域の案内等の役割を果たしてきた長町駅前プラザについて、これまでの機能に加え、長町駅西口広場と連携した交流や活動が広がる拠点として進化させていく。

#### 5-② リップルロードの機能強化

- ・ イベント等での利活用推進に向け、電気・給排水設備等を整備する。
- ・ 施設や史跡等が周辺にある特性を活かし、周辺施設と連携した案内機能を備える。
- ・ 周辺施設の利用者や学生等が気軽に立ち寄って、コミュニケーションが取れるよう、芝生やテーブルセット、ベンチ等の整備を進める。併せて隣接する集会所(パル長町)の利活用も検討する。

#### 5-③ 公共空間の環境整備

- ・ 誰もが利用しやすく、利用したいと思うような、維持管理が行き届いた空間を目指す。
- ・ 地域に愛される魅力的な空間として持続していくため、エリアマネジメントによる管理運営体制を目指す。
- ・ 都市公園である長町駅西口広場・長町駅前プラザは、公園利用者の利便性向上に向けた協定及び許可制度等を活用する。
- ・ 市道であるリップルロードは、賑わいのある道路空間を構築するため、歩行者利便増進道路(ほこみち)制度を活用する。



賑わい創出社会実験「NAGAMACHI PLACE MAKING CHALLENGE 2025」における長町駅前プラザの利活用



歩行者利便増進道路(ほこみち)の指定を想定したくつろぎ空間の社会実験(リップルロード)



都市再生特別措置法に基づくパークマネジメント(整備・管理・運用)(仙台市荒井東1号公園)

# 3 街並みづくりの取組み

## 道路空間再整備に向けて

### 道路空間再整備の検討経過と方向性

目指す通りの姿「歩いて楽しい 賑わいと交流が生まれる人中心の街並み」の実現に向けて、旧国道4号の道路空間再整備の検討を行った。

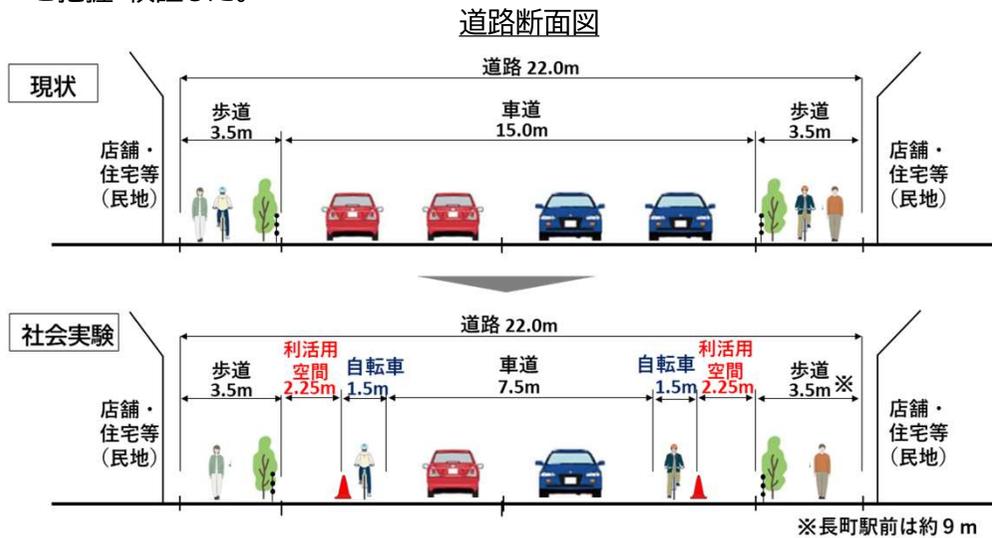
#### ①検討会における議論

検討会の交通ワーキンググループにおいて、目指す通りの姿の実現に向けて利活用空間創出と歩行環境向上を目指すこととし、そのために現状の道路空間(4車線)について「2車線化・自転車空間設置案」をベースに再整備の方針を検討することとなった。

#### ②道路空間社会実験「NAGAMACHI STREET ACTION 2024」

##### 【社会実験の概要】

車道を4車線から2車線に規制し、交通状況の変化や道路空間利活用の可能性等を把握・検証した。

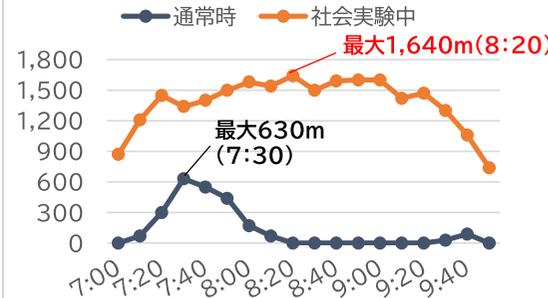


##### 【社会実験の結果】

##### 交通量・渋滞の課題

社会実験に伴う4車線から2車線への車線規制により、特に初日平日の朝に渋滞が発生した。

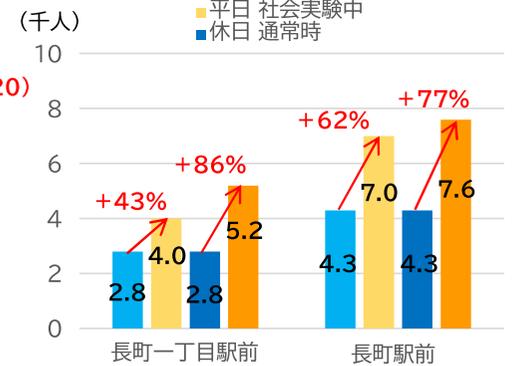
##### ▼広瀬橋交差点の南西側流入方向の渋滞長の推移



##### 賑わいの創出

公共空間への利活用コンテンツ設置等により、歩行者通行量が大幅に増加した。

##### ▼歩行者通行量



# 3 街並みづくりの取組み

## 道路空間再整備に向けて

### ③交通シミュレーション／将来交通量推計の実施

#### 【交通シミュレーション】

道路空間社会実験の課題であった平日・朝(7:00~9:00)の渋滞に対し、エリア内の現況の交通量・交通状況を再現の上、宮沢橋整備後の旧国道4号の交通状況をシミュレート。

#### 現況(4車線)



#### 新宮沢橋整備後(4車線)



#### 車線減少(2車線)



滞留長(赤矢印):信号が赤から青に変わるまでの間に交差点停止位置から並ぶ車列の長さ  
旧国道4号周辺の滞留長のうち、100m以上のものを抜粋

- ◆ 宮沢橋の整備により、現状の滞留が大幅に改善されるが、車線減少(2車線化)すると、道路空間社会実験時と同様の滞留(渋滞)が発生してしまう。
- ◆ 車線減少(2車線化)時の状況については、交差点改良により一定程度緩和が見込まれるが、整備の実現には交通量調査や設計、社会実験等を通して検証していく必要がある。

#### 【将来交通量推計】

第5回仙台都市圏パーソントリップ調査に基づき、宮沢橋や郡山折立線開通後の交通量の変化を推計した。現況の交通量に、それらの変化動向を加味することで、旧国道4号の将来の交通量を算出した。

#### 将来交通量推計の結果



整備状況	旧国道4号の断面交通量 (交通量推計結果)
現況	[北P]20.7千台/日 [南P]17.1千台/日
A開通	[北P]16.6千台/日(約20%減) [南P]13.0千台/日(約24%減)
B開通 (AB整備済)	[北P]15.1千台/日(約27%減) [南P]11.8千台/日(約31%減)
C開通 (ABC整備済)	[北P]15.1千台/日(約27%減) [南P]11.8千台/日(約31%減)

- ◆ 宮沢橋や郡山折立線の開通により、旧国道4号の交通量の減少が期待されるものの、設計基準交通量等を考慮すると車線減少の時期を明確に見通すことはできない。
- ◆ また、周辺道路の混雑状況や旧国道4号の利用状況を確認するため、今後の交通状況や交通量の変化を注視していく必要がある。

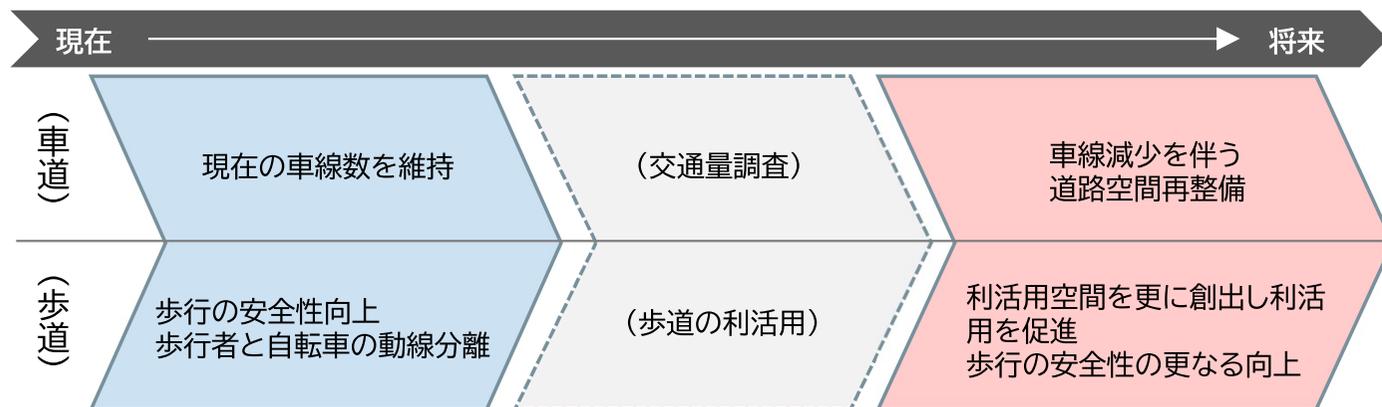
### 3 街並みづくりの取組み

#### 道路空間再整備に向けて

##### 【道路空間再整備の方向性】

- 現状の4車線から2車線に車線減少を行った道路空間社会実験では、歩行者の通行量が大幅に増加し、道路空間利活用による沿道の賑わい創出が図られた一方、交通量・渋滞の課題が明確化した。
- 交通量・渋滞の課題については、交通シミュレーションや将来交通量推計により、周辺道路整備の影響等を検討したが、短期的に車線減少ができる環境にはないことが確認されたため、交通量調査や社会実験等の継続を通じ、更なる交通量の縮減を図るとともに関係者の理解を得ていく必要がある。
- 一方、現状の課題である歩行の安全性については、早期に対策を講じる必要がある。
- 地域活性化に大きな効果が見込まれる車線減少を伴う道路空間再整備については中長期的な目標として取組みを継続する。短期的には賑わい創出に向けた取組みとともに現在の道路構成の中で歩行の安全性向上に向けた整備を進めることで、目指す通りの姿「歩いて楽しい 賑わいと交流が生まれる人中心の街並み」の実現を目指していく。

##### 段階的な道路再整備



##### (参考)検討会・交通ワーキンググループの意見等

- 道路空間社会実験の渋滞は、周知が課題だった。周知方法を引き続き検討していくべきだと思う。
- 歩行者と自転車の動線分離に伴う自転車通行空間の整備の際は、このエリアに望ましい整備モデルを検討してほしい。
- 自転車が車道走行する際は、バスやタクシー、路上駐車車両との接触の危険性がある。
- 商店街や地域の方で、広瀬橋交差点に流入している一方通行道路を逆方向にしても良いのではという声もある。
- 上記に伴う信号の時間配分の変更や沿道のお店の荷捌き駐車の解消など、渋滞対策として道路構造を改良する以外にもできることはたくさんある。
- 買い物専用の小さいバスを走らせるなど、将来を見据えた交通のあり方を考えるべき。
- 既存の空間を活用した賑わい創出については、道路再整備に関わらず進めていきたい。

# 3 街並みづくりの取組み

## 実践メニュー

### 6 道路空間の再整備

エリアのメインストリートである旧国道4号について、車中心から人中心の道路空間に向けた整備を行う。歩行者にやさしく安全・安心な道路空間とすることはもちろん、この道路を通る人が豊かさを感じ、多様な活動を通して賑わいが生まれる通りとする。

#### 6-① 誰もが安全・安心で歩きやすい歩道空間の創出

- ・ 歩行の安全性向上を図るため、歩行者と自転車の動線分離を進める。
- ・ 歩行環境の改善を図るため、歩道の地上物(街路樹・花壇等)を見直し、必要に応じて撤去・移設等を行う。
- ・ 誰もが安心して通行できるよう、歩道のバリアフリー化の状況を確認し、必要に応じて修繕等を行う。



道路空間社会実験で設置した自転車通行空間

#### 6-② 歩道拡幅のための車線減少を伴う道路空間再整備

- ・ 車線減少の重要な要素となる交通量は、時代や交通環境による変化等を注視する必要があるため、継続的に交通量を調査し、道路空間再整備の時期を検討していく。
- ・ 地下鉄やバス、タクシー等の公共交通の更なる利用促進や効果的な活用を検討していく。
- ・ 道路空間再整備の環境が整った際には、交通関係者や地域との十分な調整を行いながら進めていく。



※1997～2021年は仙台市都市整備局「交差点交通量調査」より  
※2024年は「道路空間社会実験」による交通量調査結果より

#### 6-③ 歩いて楽しい歩道空間の環境整備・利活用

- ・ 歩道空間の利活用に必要な電気・給排水設備等の整備を進める。
- ・ 賑わいのある歩道空間を構築するため、歩行者利便増進道路(ほこみち)制度を活用する。
- ・ 歩道空間を活用した賑わい創出には、商店街や沿道店舗との連携が必要なため、地域が主体となってルールを定め、活用していく。



歩行者利便増進道路(ほこみち)の指定を想定した道路空間社会実験の様子(歩道空間での出店)



歩行者利便増進道路(ほこみち)の指定を想定した道路空間社会実験の様子(道路空間での休憩場所の設置)